

高品質な小松菜を周年栽培

八潮市の恩田 政幸さん(72)と家族5人、60坪の畑で小松菜を周年栽培している。耐寒性のある品種や高温・乾燥に強いものなど、4品種の小松菜の種を選定して栽培。15棟のハウスで年間6回ローテーションしている。



【埼玉】八潮市の恩田 政幸さん(72)と家族5人、60坪の畑で小松菜

を周年栽培している。耐寒性のある品種や高温・乾燥に強いものなど、4

品種の小松菜の種を選定して栽培。15棟のハウスで年間6回ローテーションしている。

ハウスは天井と側面が開けられるタイプで、常に最適な生育環境を保ち、堆肥や米ぬかなども入れ、土作りも入念に行

小学校の社会科副読本にも登場する恩田さん。高品質な小松菜栽培と食育に力を入れる

う。収穫後は一晩冷蔵庫に保管し、翌朝には市場に出荷。「一番おいしい状態でお客さんへ届けられるよう、根をつけたまま出荷している」と鮮度のこだわりを話す。

恩田さんは、今年で就農13年目。市の若手農業者の団体「八潮市青耕会」に所属し、保育所で小松菜の種まきや田植え・稲刈りなどの農業体験をサポートしている。

「子どもたちへの食育活動を通じて、農業を身近に感じてもらう機会を作りたい」と恩田さん。子どもたちが楽しみながら野菜を栽培する姿を見て、とてもやりがいを感じているという。

また、JAさいかつ青年部にも所属し、市の小学校の社会科副読本「ふるさとやしお」に取り上げられている。恩田さんが講師となり、子どもたちに農業や野菜の魅力を教えている。「食は生きていくうえでとても大事な

なもの。自分たちが食べられている野菜は、どのように育つのかを知ってほしい」と思いを話す。

地域から信頼され、何事にも真摯に向き合う恩田さん。今後も品質を重視した小松菜作りに取り組み、将来は6次化にも挑戦する予定だ。「若い人たちに農業を職業として選択してもらえよう、今後も食育などの活

動を続けていきたい」と力強く思いを語る。